

富山県小杉町・大門町

小杉流通業務団地内遺跡群

第13次発掘調査概要

No. 15 A 遺 跡

1995年3月

富山県埋蔵文化財センター

序

昭和52年度に工事計画が具体化した小杉流通業務団地造成工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、No.20遺跡の試掘調査をかわきりにこれまで多数の遺跡の調査を実施してまいりました。

今年度のNo.15A遺跡の第13次調査を含めて数えますと、調査遺跡数は20遺跡、調査総面積は77,000m²となりました。これらの調査の結果、先土器時代から中世までの遺構や遺物が数多く検出され、特に古代の須恵器生産や製鉄関係のものが多数出土し、全国的にも注目されました。当地域の古代史が少しずつ明らかになって参りました。中でも、小杉丸山遺跡では、飛鳥時代後期の瓦と須恵器を同一の窯で焼いた兼業窯が検出され、さらにその供給先も判明した事などにより平成2年3月に国指定史跡となりました。

今回の調査では、古代の遺物とそれに関係したと見られる工人の住居跡などが検出されました。

本書は、こうした調査の成果をまとめたもので、今後の研究を進める上で役立てていただければ幸いです。

終わりに、調査に際しご協力いただきました地元の方々をはじめ、関係各機関の各位に厚くお礼を申し上げます。

平成7年3月

富山県埋蔵文化財センター
所長 桃野真晃

例　言

- 1 本書は、富山県教育委員会が、平成6年10月～12月にかけて実施した小杉町流団（第13次調査）No.15A遺跡中央地区の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、流通業務団地造成工事に伴う調査として、県土木部の依頼により富山県埋蔵文化財センターが調査主体となり実施した。
- 3 遺物整理作業などは、富山県埋蔵文化財センターで行った。
- 4 発掘調査のなかで人力掘削などについては、工事請負方式をとり、県土木部が発注し、株式会社高田建設が請負った。また、写真の一部は株式会社エイティックが請負った。
- 5 調査遺跡の面積・期間・担当者等は、以下のとおりである。

調査期間：平成6年10月21日～12月27日までの21日間

調査面積：1,000m²

調査担当者：富山県埋蔵文化財センター主任斎藤 隆・同橋本正春

所在地：小杉町青井谷字丸山

- 6 調査及び本書の作成などは、調査課長の指導のもと担当者が行った。

- 7 遺物整理作業などは、担当者が行い、次の諸氏の協力を得た。

高田和代・赤坂世津子・名苗静子・坂林久美子・茂住亜由美・神田勝代・中沖恵子

- 8 発掘調査にあたっては、下記の諸氏の協力を得た。記して謝意を表したい。

小杉町・小杉町教育委員会・小杉町シルバーハウスセンター・青井谷地区他

- 9 本書の作成までにあたっては、下記の諸氏の貴重な指導・助言をいただいた。記して謝意を表します。

岡本淳一郎・佐賀和美・麻柄一志・高慶孝・原田義範・稻垣尚美・山口辰一・吉井亮一・前島巳基・伊藤隆三・

荒井 隆

- 10 図版類の縮尺は、図版下に示し、方位は真北を、高さは標高を用いた。表中では、省略表現したところがある。

- 11 平成6年度の発掘調査関係の資料及び出土遺物は、富山県埋蔵文化財センターが保管する。

目 次

序 例言

I 序章

1 遺跡の位置と環境.....	1
2 調査の経緯.....	1
3 調査の経過.....	2
II 調査結果.....	3
1 遺構.....	3
2 遺物.....	4
III 調査成果.....	5
IV 参考文献.....	6

図版・写真・表目次

表1 年度別埋蔵文化財調査一覧

表2 調査工程

表3 日誌抄

表4 遺構一覧表

第1図 小杉町周辺の遺跡（1/50,000）

第2図 流団内の遺跡（1/25,000）

第3図 No.15A 遺跡の試掘区と調査区

第4図 発掘区割図（1/400）

第5図 遺構実測図（1/200調査区西側）

第6図 遺構実測図（1/200調査区東側）

第7図 遺構実測図（1/60 S B118、S D119）

第8図 遺構実測図（1 S B116、S D117、S K129・136 2 S K102 3 S K104・131～133
4 S K103・104・110）

第9図 遺構実測図（1 S D106・107、S K134・137 2 S D105 3 S K108 4 S K101
5 S K135）

第10図 遺物実測図

図版1 1 遠景（東南より） 2・3 遠景（南西より）

図版2 1 遠景（東より） 2 遠景（南より）

図版3 1～3 全景（1・2 東より 3 北より）

図版4 S B116、S D117、S K129・136 1・2 全景 3・4 出土状況

図版5 S B118、S D119 1 全景 2～4 出土状況

図版6 1～3 S D106・107 4 S K101 5 S K110

6 S K104 7・8 出土状況

図版7 出土遺物

I 序章

1 遺跡の位置と環境

遺跡の位置 小杉町は、富山県のほぼ中央部に位置し、町の南には金山丘陵が北には射水平野が広がり、その金山丘陵の北端に小杉流通業務団地（以下流団）がある。遺跡は、流団の東端で、山地形から平野部に移り変わる地点に所在している。また、流団は、小杉町と大門町の二町にまたがっている。

金山丘陵の中で流団のある付近（平野部）では、標高30～40m前後的小丘陵が樹枝状に分かれて平野部にせりだしている。その金山丘陵は、新第三紀泥岩・砂岩層からなる青井谷泥岩層を基盤とし、礫・砂泥互層と火碎岩層が堆積している「小杉町1959」。開発以前の丘陵は、雑木林と竹林が大半であった。流団の東側には細長い平野部があり、その中程を下条川が北流している。

小杉町の遺跡 町内の遺跡数は、昭和47年度の遺跡登録では、約40遺跡であったが、その後の開発で一挙に増加し、平成5年度の遺跡登録では約300遺跡と7倍になっている「県教委1972」「埋セ1994」。先土器時代の遺跡では、ナイフ形石器出土の小杉丸山遺跡など、縄文時代では、伊勢領・上野遺跡など、弥生時代及び古墳時代では、畠山・中山南遺跡や山王宮古墳群など、古代及び中世以後では、三十三塚・日宮城跡・小杉宿跡などがある。

また、流団地域一帯は、古代から良好な粘土が採れることから瓦生産地として現在も良く知られている。

2 調査の経緯

以前の調査 流団造成計画は、昭和48年度に県が事業主体となり計画されたもので、北陸自動車道小杉IC近くの金山丘陵上に約51haのトラックターミナル基地を造成するとして予定された。計画が示されてから、県教委と開発部局側とは保護措置についての協議を重ねる一方で、計画地内に遺跡があるかどうかの分布調査を実施することとした。そこで、県教委は、昭和51年度に分布調査を実施し、工事予定地内には31遺跡が含まれ、さらに16遺跡が隣接していることが判明した「県教委1976」。

昭和52年度からは、No.20遺跡の調査が開始され、平成5年度までに12次、26遺跡の調査を実施してきた。これらの詳細については、順次刊行してきた報告書を参照願いたい。

No.15A遺跡の調査 No.15A遺跡は、分布調査当初では一つのNo.15遺跡とされていたが、昭和54年度の試掘調査でA・Bの二遺跡に分かれ、翌年以後は、遺跡近辺で工事計画がなかったため調査をしなかった。

しかし、造成工事の途中で、工事側は、遺跡の調査を実施しないでNo.15A遺跡の北側半分に建物を建設し、遺跡の半分を破壊してしまった。そして、残された部分については緑地帯で残ることとした。

その後の平成3年度の第11次、No.18B遺跡の調査で流団造成工事に関係する調査が全て終了する予定とのことであったが、当遺跡を含む工事が第11次調査終了後新たに予定されたため、平成5年度に遺跡の一部（1000m²）だけの調査を実施して造成工事関係調査を再度全部終了する予定であった。ところが、県土木部は、再度新たな工事計画を示し、No.15A遺跡の残された部分のほぼ全体が工事予定地内に含まれることが判り、平成6年度に調査を実施することとなった。

調査年度	調査種別・遺跡名	調査年度	調査種別・遺跡名
昭和51年度	分布調査全体	昭和58年度	本16・21
昭和52年度	試掘20	昭和59年度	本21
昭和53年度	試掘20・本調査20	昭和60年度	本18B・19・21・21隣接地区
昭和54年度	試4・6~11・13~16・18・31本3・13・16~18A	昭和63年度	本19
		平成元年度	本15B・18A
昭和55年度	試2・3・7・18C・20B・32本3・7・18C・32	平成2年度	小杉町教育委員会試掘1
		平成3年度	本15B・18A・小杉町教委試1
昭和56年度	試19・21~26本2・3・6・7北	平成5年度	本15A
昭和57年度	試丸山・青井谷・丸山I本1・11・21・23・24・26	平成6年度	本15A

試は試掘調査、本は本調査の略 数字は旧遺跡番号 No.11・21・22・25は、小杉丸山遺跡である。

表1 年度別埋蔵文化財調査一覧

3 調査の経過

平成6年春から事前の協議を始めたが、調査着手時期が県土木部内の優先事業についての調査（他町の道路関係調査）を年度の前半に行うこととなったため、流団関係調査は平成6年末からしか実施できないという見通しから、今年度は1000m²のみの調査とし、11月中頃から調査準備を開始し、調査に着手した。

調査は、県埋蔵文化財センターが県土木部の依頼を受けて行い、センターからは、調査員2名を派遣した。

調査の前半は、事前準備として立木などの伐採・調査事務所などの整備・現況測量・盛土除去・基本杭打設などを行った。その後、包含層掘削を行った。地区の東側は、建物建設工事による削平部分があり、壊されていた。遺構検出の結果、中央部以西は、遺構が点在していた。調査後半は、遺構掘と記録・写真撮影などを行った。遺構は、竪穴住居跡と土坑などが調査区西側斜面地区で検出され、中央地区では平行する二条の溝（途中で折れ曲がる）と土坑などが検出された。この頃に、平面図作成と上空からの全景写真撮影（ラジコンヘリ使用、写真撮影業者委託）を行なった。最後に最終確認を実施して終了した。

発掘調査終了後に、現地で関係者と県埋蔵文化財センターで発掘調査終了に伴う協議を行い、現地調査は終了した。

遺構や遺物などの整理作業は、現地調査途中から実施しており、引き続き報告書作成とを合わせて平成6年3月まで県埋蔵文化財センターで実施することとした。また、遺構や遺物などの整理作業及報告書作成終了後の遺物や記録資料などは県埋蔵文化財センターで保管・管理することとした。

これらの年間行程と進行状況は表2・3に示した。

項目 月	4～10月	11月	12月	1～3月
協議他	事前打合		終了報告	
調査準備他		→		
包含層掘削		→		
遺構掘		→		
写真・記録		→		
遺物整理他			水洗他	報告書

表2 調査工程

4～10月	事前打合	12月6日～	平面図他作成
11月1～4日	樹木・盛土除去、プレハブ建設	〃16日	遺物・器材の一部搬出
〃7～22日	人力掘削（包含層掘削）	〃22日	上空からの斜写真撮影
11月9日～12月15日	遺物水洗（現地）	〃26日	器材の搬出
〃月18日～	遠景写真、断面図他実測開始	〃27日	調査終了打合
〃22日	包含層掘削・遺構検出終了	1月～3月	遺物・図面他整理、報告書作成
〃26日～	遺構掘削開始		

表3 日誌抄

II 調査結果

No15 A 遺跡調査の結果、遺構では古代の住居跡 2・方形周溝遺構（推定）1と溝・土坑・穴他が検出され、遺物では縄文時代の石斧、古代の須恵器・土師器、中世の珠洲などが出土地した。

遺構は、調査区中央部から西地区にかけて集中していた。調査区東地区では、以前の流団造成工事により破壊・削平されており、前年度調査区と同様で、ほとんど遺構は検出されなかった。遺物は、遺物整理箱で10箱出土し、遺構と同様の状況で、遺構内及び周辺が多く、調査区中央部から西地区にかけて集中していた。

1 遺構

(1) 縄文時代（第4～9図 図版1～6）

明確な縄文時代の遺構は、今回の調査区内では確認されなかつたが、P148から縄文時代の磨製石斧が出土していることとSK103からは剝片が出ており、これらの2遺構が縄文時代の可能性のある遺構としておく。

(2) 古代

古代の遺構としては、平安時代の竪穴住居跡2棟・方形周溝遺構（推定）1と溝・土坑・穴他が検出され、調査区の中央部から西地区に集中していた。

竪穴住居跡2棟は、調査区西地区にあり、遺構の軸と標高はほぼ同じで並んでいる。

竪穴住居跡（SB116、SD117、SK129・136）は、調査区西地区で検出され、竪穴住居跡（SB118、SD119）の北東に位置する。平面形は、現存状況では、長方形を呈しているが、床面の状況などから正方形に近いものと推定される。規模は、南西・北東方向4.1×南東・北西方向（現存）3.7×北西壁高0.4mを測る。壁は、床面を水平にしていることから北西側（斜面上側）が高く、南東側（斜面下側）に行くにつれて壁の高さがなくなる。住居跡は、斜面を削り構築している。住居跡の上側には、排水用の溝が斜面上に「コ」の字状に過る。溝の規模は、幅0.3×最大深0.6mを測る。床面は、割合硬く、水平で、明確な主柱穴は確認されなかつた。主柱穴かどうかは不明であるが、北西壁に食い込むように小穴が二個あり、柱穴の可能性がある。住居跡内には、幾つかの穴があるがいずれも浅いものである。SK136は、住居跡内の南西角にあり、円形で、直径60×深25cmの規模で土師器の壺などが出土しているが、住居跡に伴うかは不明である。SK129は、住居跡の北東にあり、長方形を呈し、1.7×1.0×深0.4mの規模で土師器の瓶などが出土しているが、住居跡に伴うかは不明である。南西辺では、周溝状の小さな溝があるが、小穴に切られている。焼土は、南西角近くで僅かにあり、直径5×厚0.1cm程度、SK136の横である。住居跡出土遺物は、須恵器杯身・杯蓋・甕・壺、土師器瓶・長甕・椀などがあり、大半が床面近くである。溝からの出土遺物はなかつた。

竪穴住居跡（SB118、SD119）は、調査区西地区で検出され、竪穴住居跡（SB116、SD117）の南西に位置し、全体の五分の四程を調査し、残りの南西側部分は発掘していない。平面形は、SB118と同様で、正方形と推定される。規模は、SB118より少し大きく南西・北東方向6.2×南東・北西方向（現存）4.6×北西壁高0.5mを測る。壁の形状は、SB118と同様で、北西側（斜面上側）が高い。住居跡内部には、幅20×最大深5cmを測る周溝が壁に沿って巡る。周溝は、北西辺の中央部から北西角に向かって二条となり、北西角を切って外に向かい、外側周溝と合流する。また、内部の周溝は、北東壁付近にある穴P1につながる。住居跡は、斜面を削り構築し、斜面上側には排水用の溝が巡る。溝の規模は、幅0.5×最大深0.6mを測る。溝は、北西辺の南西側で斜面上側の溝と合流している。また、北西角付近では、一段浅く、狭くなる。溝の形状は、南西側も同様と思われるが、未調査区に伸びているため現段階では不明とする。床面は、割合硬く、水平で、明確な主柱穴は確認されなかつた。焼土は、住居跡のほぼ中央と思わ

れる地点で検出され、直径30×厚0.3cm程である。穴P1は、長方形を呈し、1.2×0.6×深0.4mであり、住居跡内周溝とつながることなどから、作業用穴の可能性がある。住居跡南西の大土坑は、後世の搅乱穴である。住居跡出土遺物は、須恵器壺、土師器瓶・内黒土器などがある。遺物量は、少なかった。溝出土遺物は、須恵器甕・壺、土師器甕である。

方形周溝遺構（S D106・107、SK134・137）は、調査区の中央部で検出させ、推定で約半分を調査し、残りの半分は、南西（未調査区）に伸びているため発掘しなかった。遺構は、溝二条が平行に「コ」の字状に週るもので、方形周溝墓的な溝の形状をしている。溝の規模は、一辺が現在の検出長さで約6mあり、幅40×最大深40cmである。底面の高さは、水平で、北西側（斜面上側）が一番深くなっている。北東部では、溝の深さが浅くなっていることとSK134があることなどから二条の溝が合流して一条となり、細くなっている。遺物は、土師器碗・甕・高杯・内黒土器があり、底面出土もあった。溝で区画された内側では、遺物と遺構は、検出されなかった。SK137は、北西側の辺中央部で外側の溝と切り合っている。底面からは、須恵器杯身二枚が重なりあい口を下にして出土した。また、遺物の出土地点は、丁度外側の溝内の位置に当たる。溝と土坑は、同時期と見ていている。SK134も同様である。

土坑は、調査区中央部に多く、方形と円形に近い例と不整形がある。規模では、SK132の推定で2m程度が最大で、次はSK101などの0.5mから1m程度が中規模で、それ以下は、柱穴状の穴である。方形例では、周囲の壁が焼けているSK101などの例とそうでないSK113などがある。

焼壁土坑は、SK101・110・126の3例があり、上面が削平された例が多い。SK110内からは、土師器甕と焼粘土塊が出土しているが、他の遺構からは時期のわかる遺物は、出土しなかった。壁が焼けていない方形の土坑では、僅かの遺物が出土したSK102などと無遺物のSK113などがある。

最大の土坑SK132は、約半分が、南西（未調査区）に伸びているため発掘しなかった。遺物は、遺構内とその周辺に少しあり、土師器甕・壺・碗がある。平面形は、円形を基本とし、底面は平らでない。この土坑と同様な例は、今回調査区内では、検出されなかった。柱穴状の遺構は数多くあったが、遺物の出土したものだけ番号を与えた。また、小さな穴は、Pとした。

溝は、斜面に平行に走り、南西・北東方向であり、前年度調査区の検出遺構とつながる例もある。溝の規模は、大きくなく、幅20cm、深さ5~10cm程度が多かった。調査区西側で住居跡より上の溝は、依存状況が良く、深さが20cmを超す例もあった。

その他の遺構としては、近世以降までの溝などがある。

2 遺物（第10図 図版7）

遺物は、調査区東側が工事による削平を受けていたため少なく、その他の地区出土と遺構内出土である。

(1) 縄文時代

縄文時代の遺物は、土坑内出土の磨製石斧1点と時期不明の剝片がある。磨製石斧1は、蛇紋岩製で敲打痕跡を残している。剝片では、赤石2とメノウ系3の剝片2点がある。

(2) 古墳時代

古墳時代の遺物としては、器台と高杯があり、調査区中央部で出土した。器台4は、口縁部のみの破片であるが、形状から器台受部とする。口縁端部には、凹線状の窪みが巡る。高杯5は、接合していないが同一破片であるので図上復元した。口縁部は、受部中程で稜を持って立ち上がり、端部付近で外側へ水平に開く。脚部は、円筒形の棒状脚で、裾部は「ハ」の字状に開く。

(3) 古代

遺物では、須恵器・土師器・焼粘土塊・炭化物などがあり、遺物の中では一番多く、遺構内出土とその他X Y出土がほぼ同量である。

須恵器では、壺・甕・杯身（A・B）・杯蓋が出土しており、遺構内出土例を主として図示した。30は、壺の口縁部で、住居跡 S B118出土である。22~27は、杯身で、22・24・25は、S B116出土で、23は、土坑 S K129、26・27は、方形周溝遺構に接している S K137出土である。22などは、無高台で23は、幅広の高台が付く。26・27は、白色で、生焼け状で、かなり表面が剥落している。このほかに甕の破片などがある。

土師器では、甕・甌・碗がある。碗13は、方形周溝遺構 S D106（内側溝）出土で、内面が黒色処理されている。このほかに内黒でない碗もある。瓶9は、S K110出土で、底部を欠き全器形が不明であるが、把ってがあるため甌とした。同例は、8・9・11・12などである。図示はしなかったが甕の破片 6・8・10、高杯14（受部内面黒色処理）などがある。16~21は、土管状の遺物で、外面に櫛状具による削り痕跡があり、内面はへら状具による削り痕跡などが見られるものが多く、内外面ともに縦方向の整形を行っている。器肉の厚さはいずれも分厚く、2cm前後であり土師器瓶破片などの厚さの2倍以上ある。口縁部（上）になるか底部（下）になるかは、即断できないが端部の部位では、横方向の削りとなが見られる。

28・29・31は、株洲の甕破片で、32は、株洲のすり鉢である。33は、白色の土師質小皿で、付着物はない。34・35は、越中瀬戸で、他にも少量の陶磁器類がある。

III 調査の成果

ここでは、今回調査区の調査結果などをまとめる。また、平成5年度の調査結果などの詳細は刊行済みの報告書「県センター(橋本)1994」を参照願いたい。

(1) 今年度調査結果

今年度の調査区は、遺跡中央部の部分的調査であり、南側が未調査区として残っており、さらに早ければ次年度に調査が実施されるかもしれない。そこで、断定的な結論は控えておき、未調査区の調査実施後の結果と併せて検討することとしたい。ただ、現時点で、確認できたことと前年度調査結果の中で一部修正個所があるのでそれらをあわせて報告し、まとめとする。

遺跡の範囲は、今回の調査結果より遺構が西と南に伸びるため、昭和54年度時点の推定範囲より南と西側に広くなり、斜面裾部までと現存する斜面上（南西側）までとなる。

遺跡の時代は、縄文時代（中期中心）、古墳時代、古代（平安時代中心）、中・近世である。

遺跡の種類は、縄文時代：遺物散布地、古墳時代：遺物散布地、古代：遺物散布地・集落、中・近世：遺物散布地である。

遺構の中で、今回調査区で検出された古代の住居跡は、外側（斜面上側）に排水用の溝を持ち、これまでの流団調査で、数多く検出された住居跡と同様例であることから、前年度調査で検出された段状遺構は、住居とは即断しない。方形周溝遺構は、未調査区に約半分があるため、性格についての結論は、持ち越す。

焼壁土坑は、流団調査でこれまでに数多く検出されているものであるが、その中で、方形で掘り込みも深いものについては、土師器焼生窯の可能性があるとしておく。溝については、斜面上側の溝は近世以降の耕作に伴う畝跡とみられる。

遺物は、破片出土が多いことから、時期決定出来にくく平安時代中心とし、次年度以降の遺物も含めて検討したい。

また、遺構出土遺物も少ないため同様である。

土管状遺物は、小破片であるため即断は出来ないが、ここでは形状から土管状遺物としたが、県内出土の埴輪の整形や形状などと似る点があるため、埴輪の可能性があるものとしておく。

以上が本遺跡の内容である。最後に、調査並びに遺物及び資料整理と報告書作成などにご協力くださいました方々に謝意を表します。

遺 物	縄文時代	縄文土器（中期主体 有補修孔土器片・纖維含有土器片）
	古墳時代	土師器（器台・高杯）
	平安時代	土師器（甕・瓶・杯身・内黒椀・内黒高杯）・須恵器（壺・横瓶・甕・杯身・杯蓋）
	中・近世	珠洲（壺・すり鉢・甕）・古銭（天聖通寶・元豊通寶）・陶磁器他（八尾・越中瀬戸）
遺 構	縄文時代	土坑
	平安時代	竪穴住居跡・柱穴・土坑（焼壁土坑）・溝（段状遺構状溝）
	中・近世	柱穴・溝

表 No.15 A 遺跡遺構・遺物一覧表

IV 参考文献

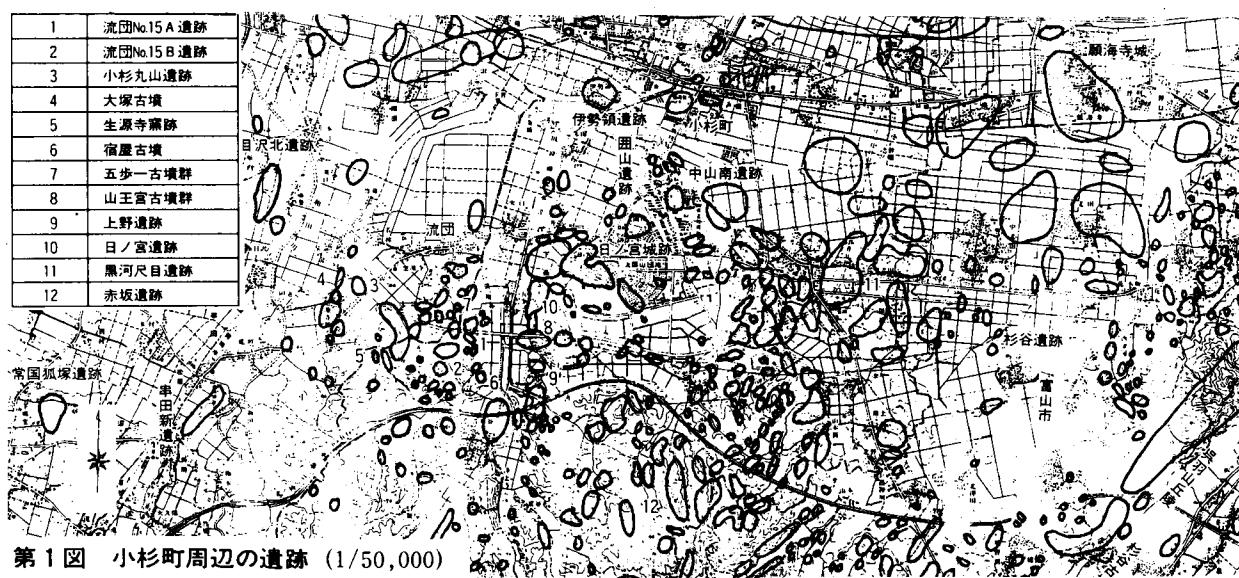
- 分布調査 富山県教育委員会 1976 『昭和51年度 富山県遺跡分布調査報告書』
- 第1次 富山県教育委員会 1979 『富山県小杉町流通業務団地内No.20遺跡緊急発掘調査概要』
- 第2次 富山県教育委員会 1980 『富山県小杉町・流通業務団地内遺跡群第2次緊急発掘概要』
- 第3・4次 富山県教育委員会 1982 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第3・4次緊急発掘調査概要』
- 第5次 富山県教育委員会 1983 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第5次緊急発掘調査概要』
- 第6次 富山県教育委員会 1984 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要』
- 第7次 富山県教育委員会 1985 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第7次緊急発掘調査概要』
- 第8次 富山県教育委員会 1986A 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要』
- 小杉丸山遺跡
- 第8次 富山県教育委員会 1986B 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要』
- No.18遺跡B地区 No.19遺跡
- 第9次 富山県埋蔵文化財センター 1989 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第9次緊急発掘調査概要』
- No.19遺跡
- 第10・11次 富山県埋蔵文化財センター 1993 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第10・11次緊急発掘調査概要』
- 第12次 富山県埋蔵文化財センター 1994 『富山県小杉町・大門町流通業務団地内遺跡群第12次緊急発掘調査概要』
- 富山県教育委員会 1986 『小杉丸山遺跡隣接地区発掘調査概要』
- 大門町教育委員会 1986 『石名山窯跡発掘調査報告』
- （その他にセンター発行の各年度の調査一覧に各遺跡の事項記載）
- 富山県 1976 『富山県史 通史編1 原始・古代』
- 富山県 1972 『富山県史 考古編』
- 富山県埋蔵文化財センター 1994 『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』
- 小杉町 1959 『小杉町史』
- 高掘勝喜 1965 「縄文文化の発展と地域性－北陸－」『日本の考古学II』

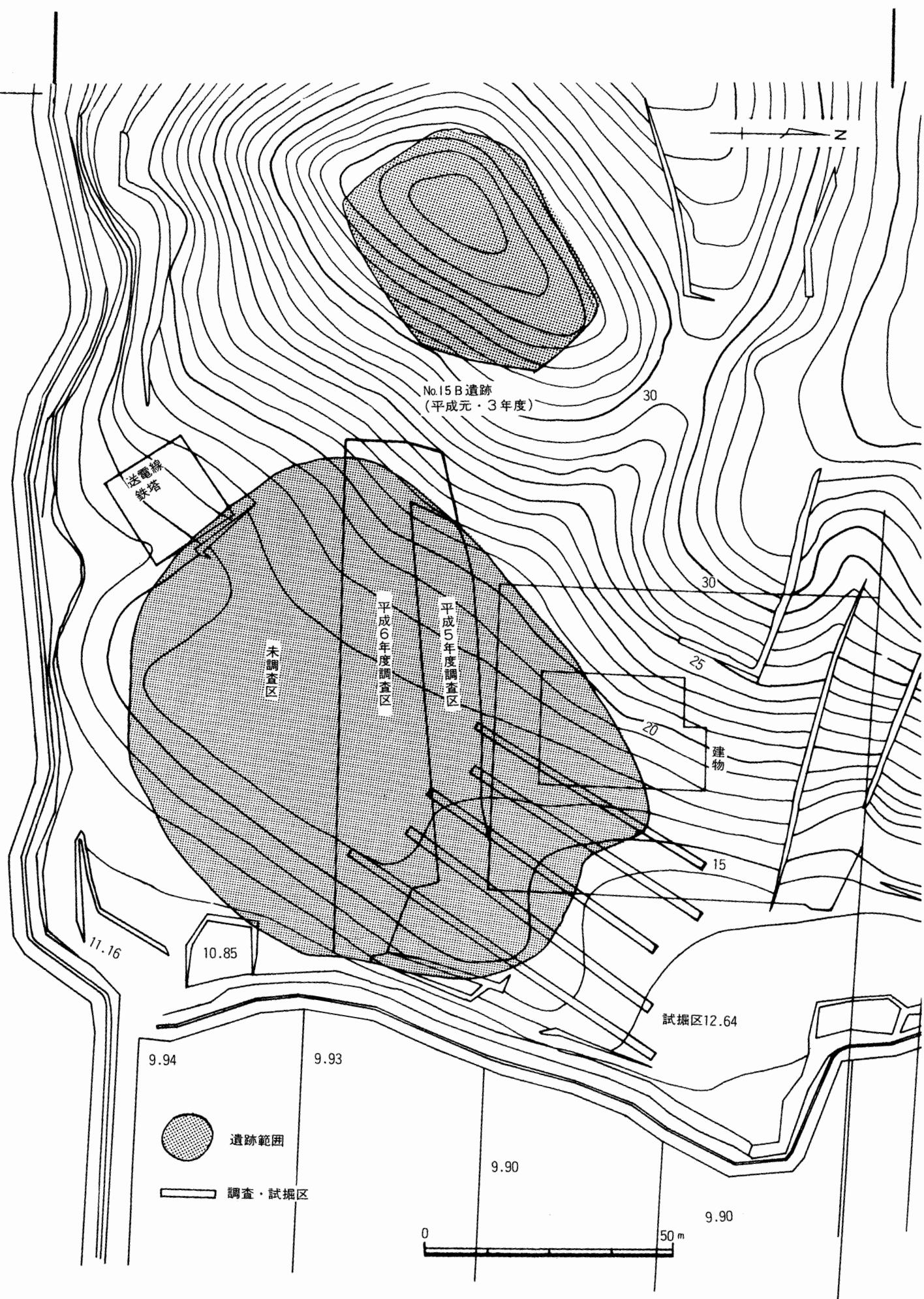
番号	種類	出土区 X Y	形 状	規 模 C M	備 考
1	101	S K38-63	方形	130*100*10	焼壁
2	102	S K37-55	正方形	94*89*20	土師器
3	103	S K41-47	長方形	130*50*10	剥片
4	104	S K36*57	不定形	120+*90*44	131~133と接する 土師器
5	105	S D 37-40-49-53	中央~東	1200*40*20	土師器
6	106	S D 36-38-42-46		東辺700*40*30 西辺500	107と平行に巡る 土師器柄内黒
7	107	S D 36-38-42-46		東辺700*40*40 西辺500	106と平行に巡る 土師器
8	108	S K40-47	長方形	110*65*20	土師器
9	109	S K42-46	長方形	100+*70*10	
10	110	S K41-42-46	方形	160*130*30	焼壁 土師器・焼粘土塊
11	111	S K42-45-46	長方形	150*100*40	土師器
12	112	S D40-42-45	南西~北東	500*50*10	H 5段状内へ
13	113	S K41-44	正方形	95*90*15	
14	114	S D40-42-44	南西~北東	1200*40*8	H 5段状内へ
15	115	S K40-44	不定形	160*100*40	土坑2個
16	116	S B 39-41-34-36		420*330+*41	土師器・須恵器
17	117	S D 39-41-34-36		幅40*深50	
18	118	S B 36-38-31-33		600*470+*45	土師器・須恵器
19	119	S D 36-38-31-33		幅50*深50	周溝 土師器・須恵器

番号	種類	出土区 X Y	形 状	規 模 C M	備 考
20	120	S D 36~42-30~32			
21	121	S D 36~42-29~31			
22	126	S K38-43	不定形	210*130*15	土師器・焼粘土塊・炭化物
23	127	S D 38~43-41~42	南西~北東	600*40*12	H 5段状内へ
24	128	S D 40~41~37~38	北西~南東	250*40*20	
25	129	S K 40~41~36~37	長方形	170*100*40	土師器・須恵器
26	130	S K40~41~39	長円形	45*30*15	土師器
27	131	S K36-56	方形	90*80*30	土師器
28	132	S K36-57	長円形	110*50*45	土師器
29	133	S K36-57	長方形?	120*30+*35	未調査区へ
30	134	S K36-46	長円形	100*80*20	土師器・須恵器
31	135	S K 36~37~39~41	方形?	420*220+*35	未調査区へ 土師器
32	136	S K40-35	円形	60*25	S B116内 土師器
33	137	S K36-42	長方形	110*60+*50	S D107と同時期 須恵器
34	139	S K40-41	円形	40*15	土師器
35	140	S K39-41	円形	50*20	土師器
36	148	P39-48	方形	60*50*25	磨製石斧
37	149	P40-56	方形	80*40*20	土師器

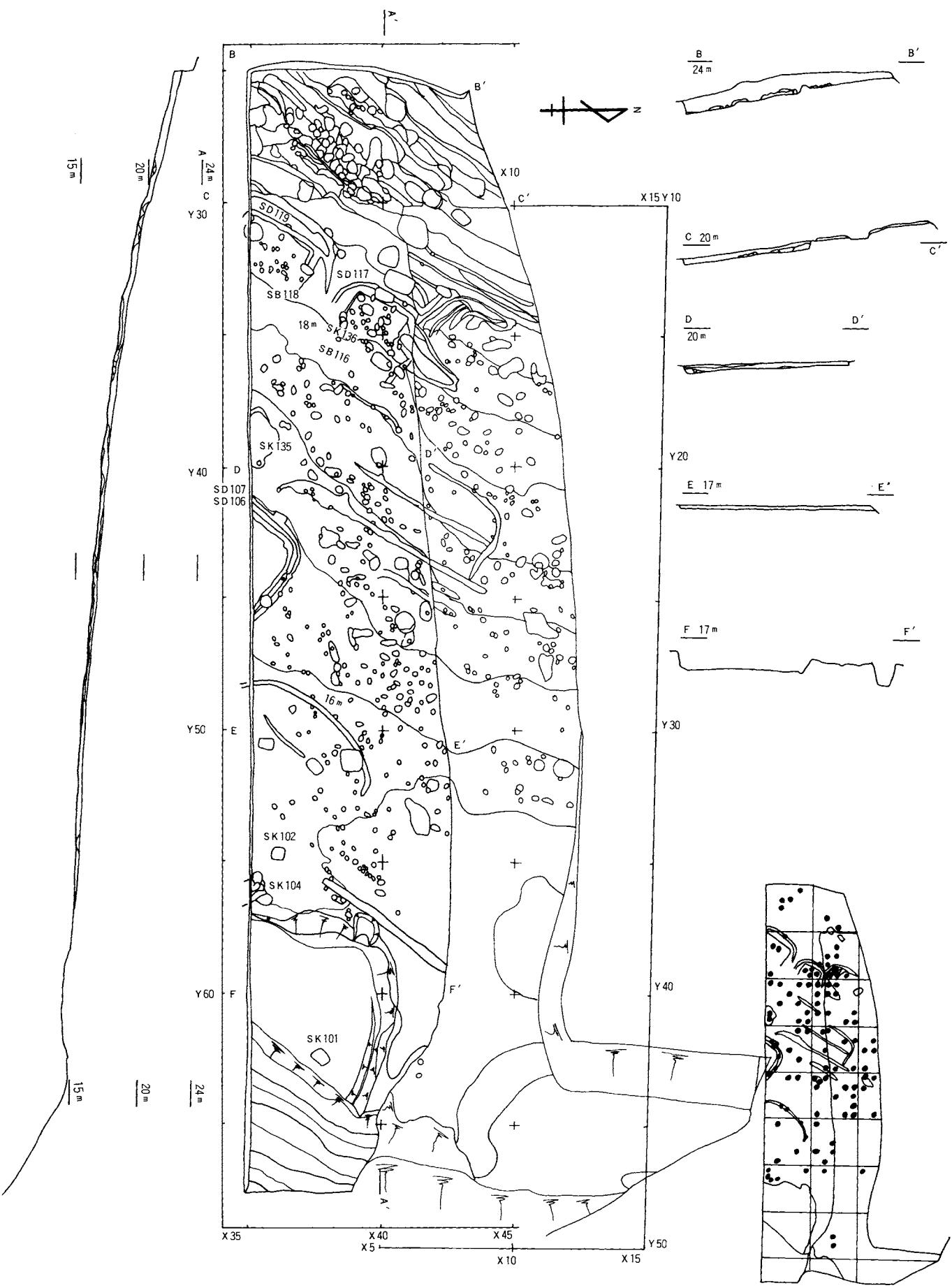
表4 遺構一覧表

1	流団No.15 A遺跡
2	流団No.15 B遺跡
3	小杉丸山遺跡
4	大塚古墳
5	生源寺遺跡
6	宿屋古墳
7	五歩一古墳群
8	山王宮古墳群
9	上野遺跡
10	日ノ宮遺跡
11	黒河尺目遺跡
12	赤坂遺跡





第3図 No.15 A 遺跡の試掘区と調査区



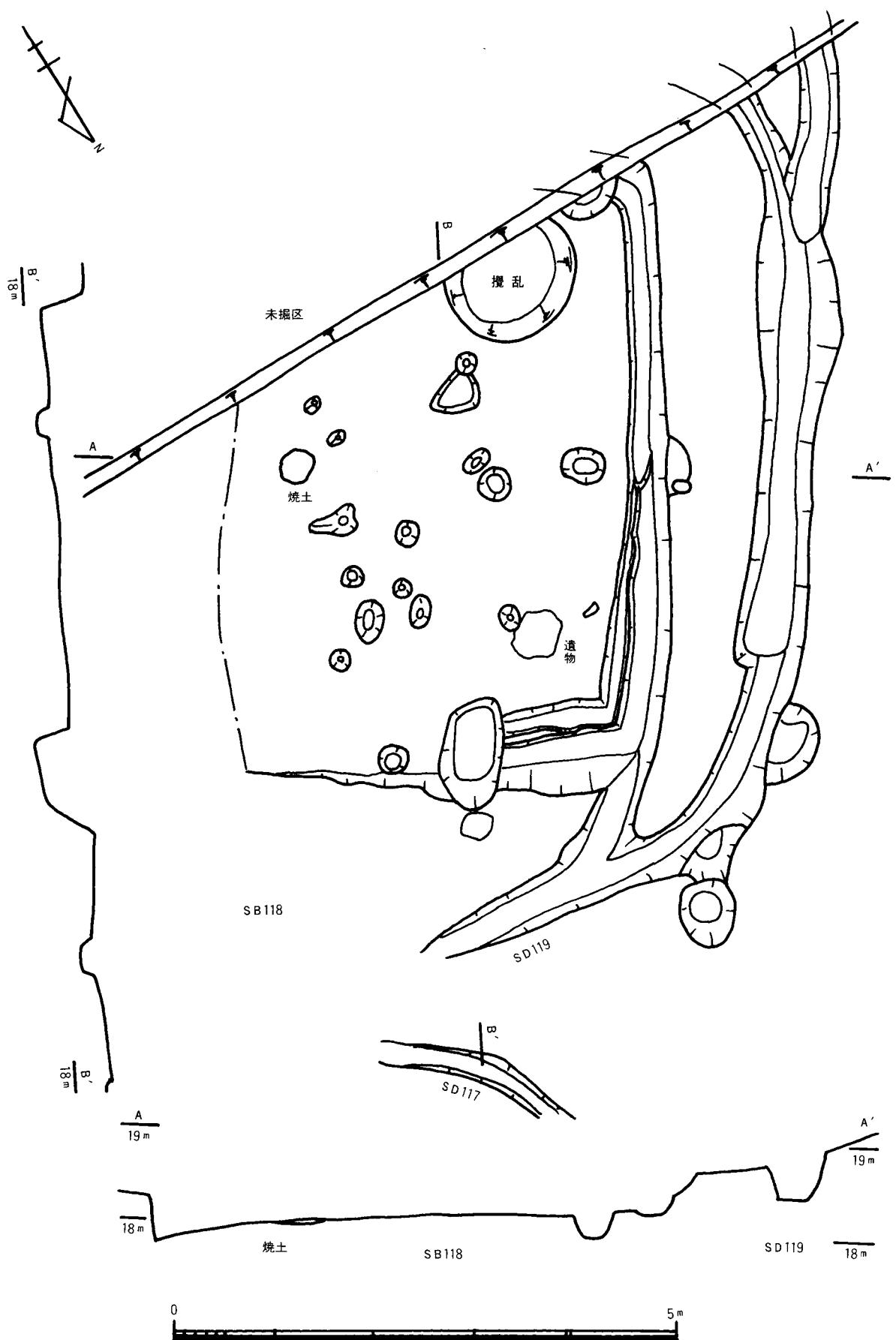
第4図 発掘区区割図(1/400) 及び遺物出土状況図右下 (約1/1000)



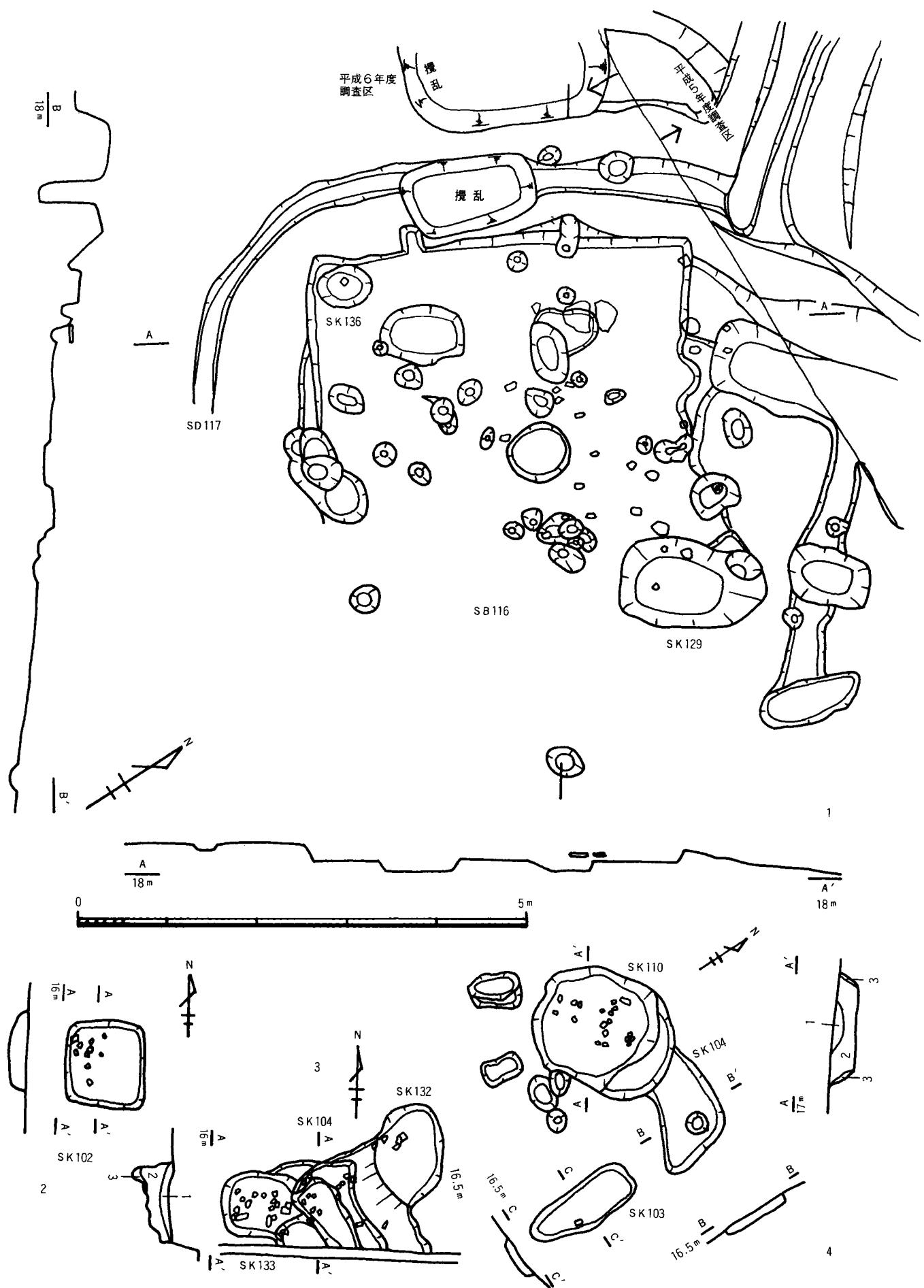
第5図 遺構実測図(1/200 調査区西侧)



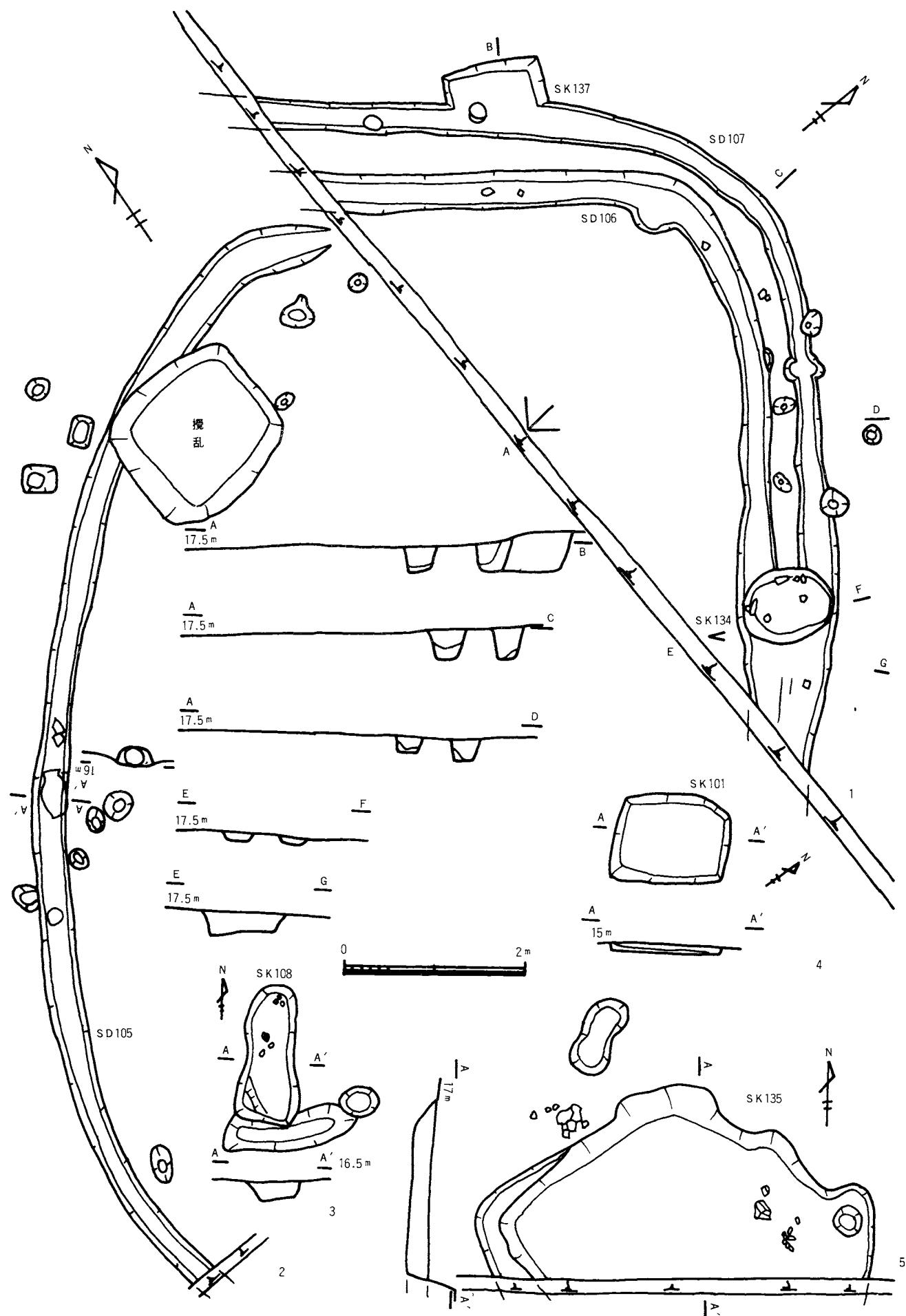
第6図 遺構実測図(1/200 調査区東側)



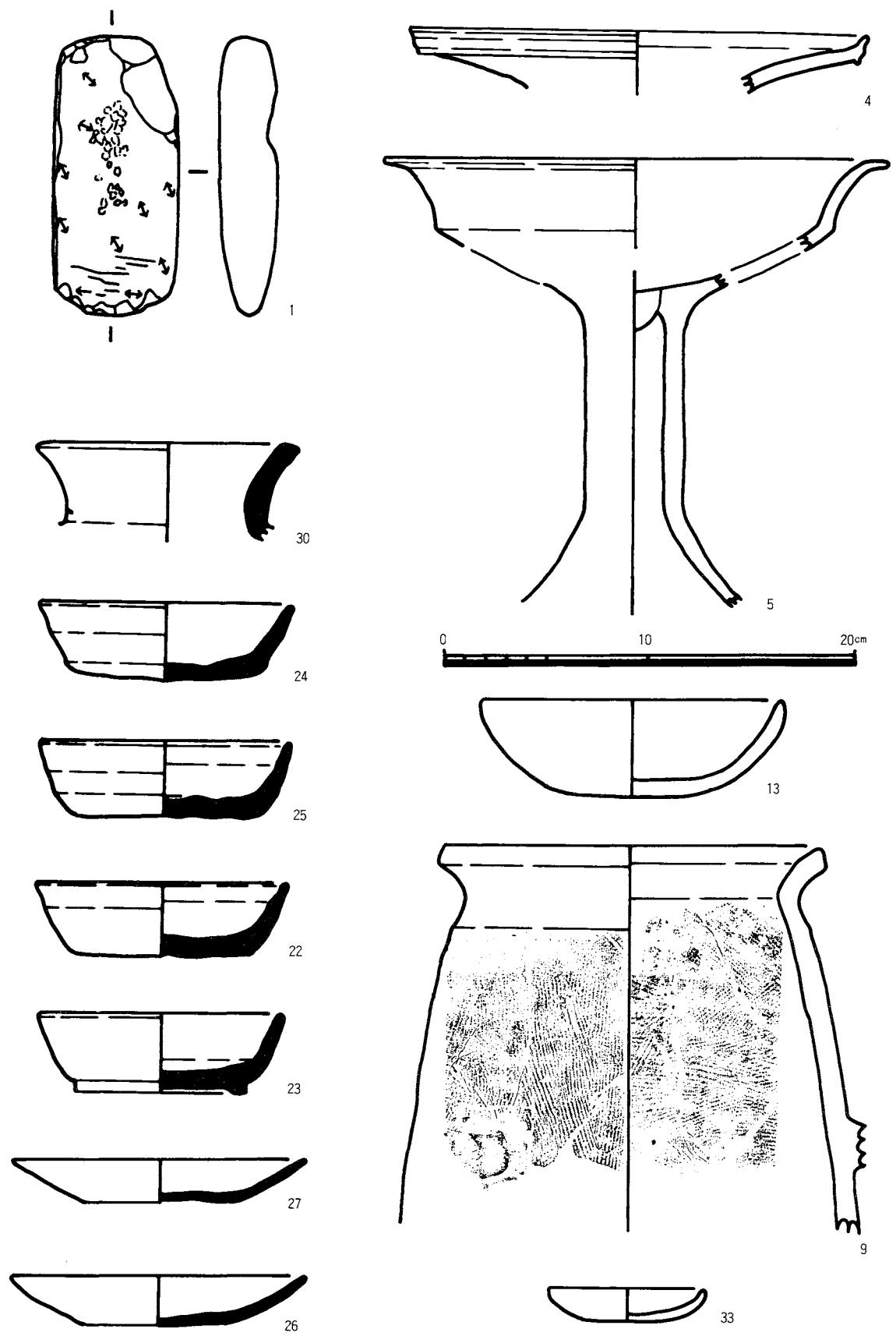
第7図 遺構実測図(約1/60) SB118-SD119



第8図 遺構実測図(約1/60) 1. SB116 SD117 SK136 SK129 2. SK102 3. SK104 4. SK103 104 110



第9図 遺構実測図(約1/60) 1.SD106・107 SK134・137 2.SD105 3.SK108 4.SK101 5.SK135



第10図 遺物実測図(約1/3) 1. P148 4. X37Y54 5. X39Y44 30. SB118 22-24-25. SB116
23. SK129 26-27. SK137 13. SD106 9. SK110 33. SK136



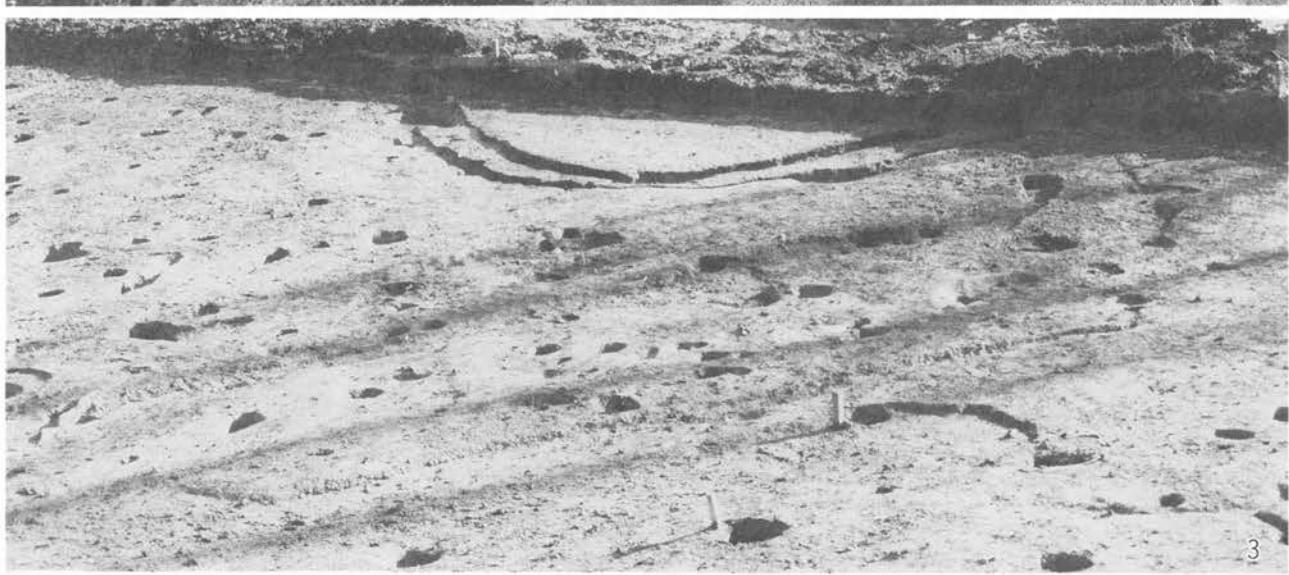




1



2

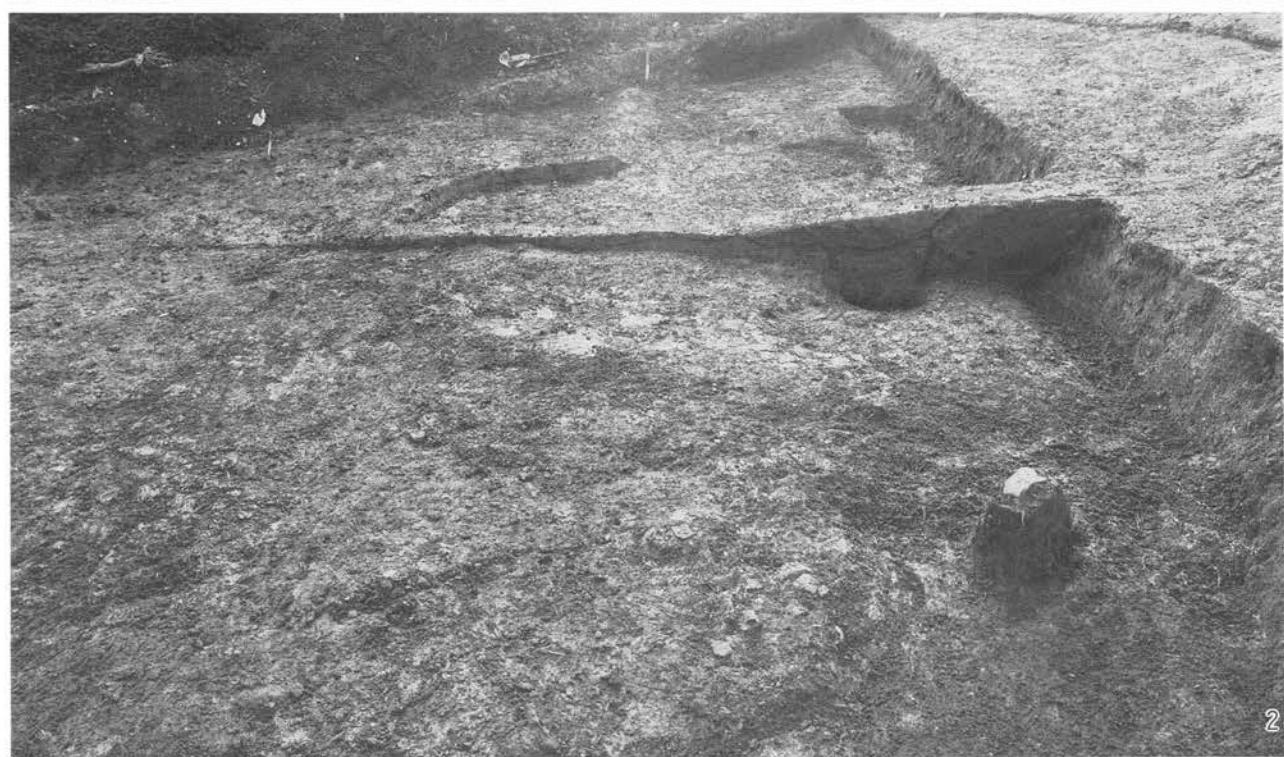


3

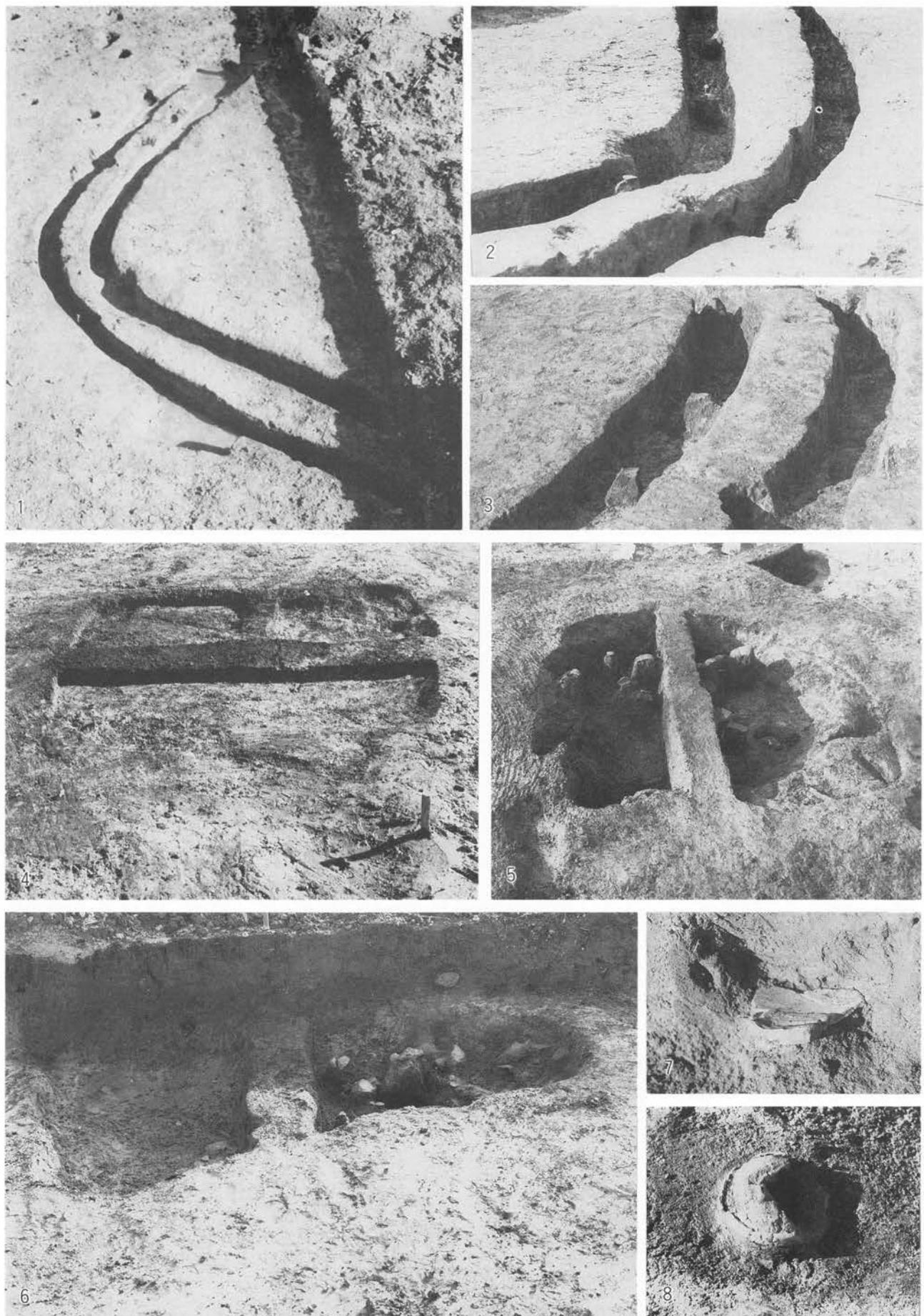
図版3 1. 全景（東より） 2. 全景中央区（東より） 3. 全景中央区（北より）



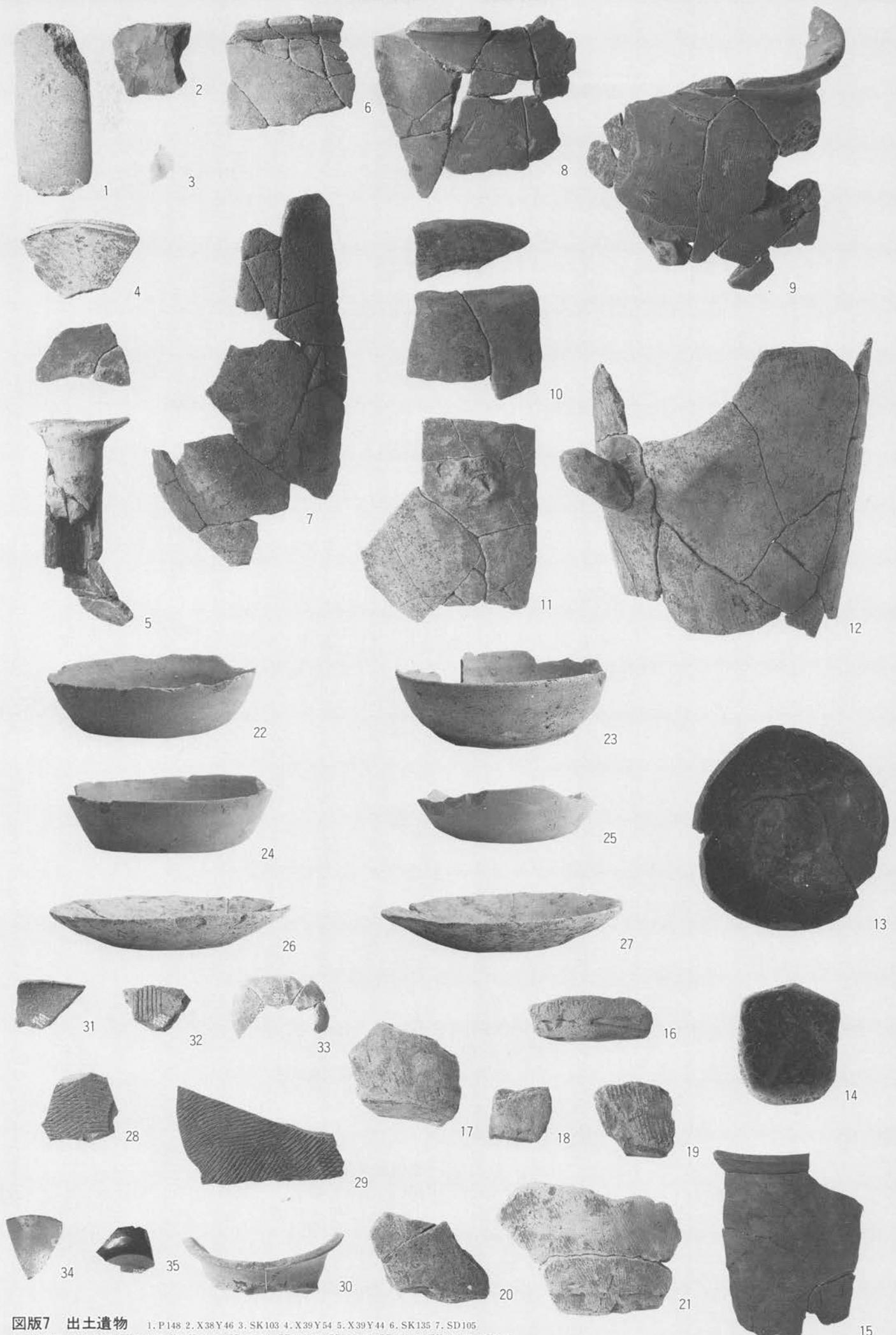
図版4 SB116・SD117(SK129) 1. 全景(東より) 2. 全景(南より) 3・4. 出土状況



図版5 SB118・SD119 1. 全景（東より） 2～4 出土状況



図版6 1～3 SD106・107 4．SK101 5．SK110 6．SK104他 7・8 出土状況



図版7 出土遺物 1. P148 2. X38Y46 3. SK103 4. X39Y54 5. X39Y44 6. SK135 7. SD105
8. SK110 9. SK110 10. SK104 11. X38Y39 12. SD105 13. SD106 14. SD107 15. SB116 16. SK132 17. SK129
18. X41Y51 19. X37X51 20. X41Y38 21. SK130 22. SB116 23. SK129 24. SB116 25. SB116 26. SK137 27. SK137
28. SB116 29. SK134 30. SB118 31. X38Y27 32. X38Y43 33. SK136 34. X42Y30 35. X37Y38

報告書抄録

ふりがな	とやまけんこすぎまちだいもんまちこすぎりめうつうぎょうむだんちないいせきくんだいじはくつちょうきがいよういせき							
書名	富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第13次発掘調査概要No.15 A 遺跡							
編著者名	富山県埋蔵文化財センター							
編集機関	富山県埋蔵文化財センター							
所在地	〒930-01 富山県富山市茶屋町206番3号							
発行年月日	1995年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
りゅうだんNo.15 A いせき	いみずぐん こすぎまち あおいだに あざまるやま	163813	36度 41分	137度 2分 14秒	19941021 19941227	1000	流通業務 団地造成	
流団No.15 A 遺跡	射水郡小杉町 青井谷字丸山							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
流団No. 15 A 遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良時代 中世	土坑 住居跡2・焼壁土坑1	縄文土器 土師器 須恵器・土師器 珠洲				

富山県小杉町・大門町
小杉流通業務団地内遺跡群

第13次発掘調査概要
No. 15 A 遺跡

平成7年3月発行

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター

富山市茶屋町206番3号
TEL 0764-34-2814
FAX 0764-34-2859

印刷所 日興印刷株式会社